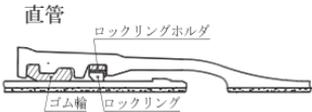
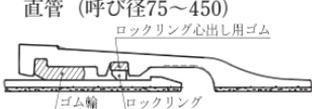
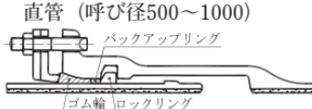
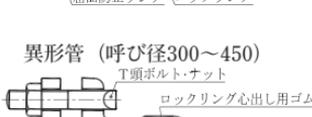


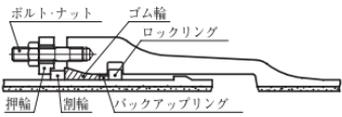
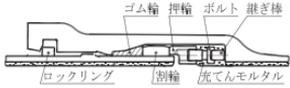
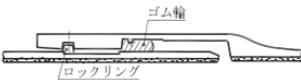
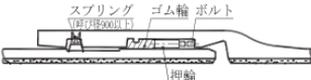
1. 接合形式の要点

接合形式と呼び径については、その特長及び用途を熟知し、使用条件に適したものを選択する。

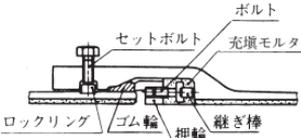
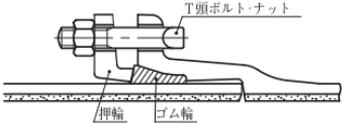
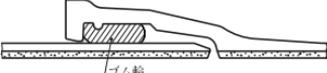
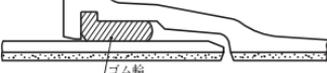
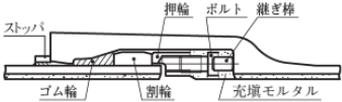
接合形式の要点

| 接合形式 | 呼び径 | 特長 | 用途及び使用についての要点 |
|-------------------|---------|---|-----------------------------------|
| GX形 | 75～450 | <p>大きな伸縮性及び可とう性を持ち、最終的には受口と挿し口がかりあって離脱防止の役目をする。直管がプッシュオンタイプで、異形管がメカニカルタイプである。</p> <p>継手の水密性は、プッシュオンタイプはT形、メカニカルタイプはK形と同じである。</p> | 耐地盤変動（耐震用、軟弱地盤用など）の要求される配管に適している。 |
| NS形 | 75～1000 | <p>大きな伸縮性及び可とう性を持ち、最終的には受口と挿し口がかりあって離脱防止の役目をする。</p> <p>継手形式は、呼び径75～250の直管及び異形管、呼び径300～450の直管がプッシュオンタイプで、呼び径300～450異形管、呼び径500～1000の直管及び異形管がメカニカルタイプである。継手の水密性は、プッシュオンタイプはT形、メカニカルタイプはK形と同じである。</p> | 耐地盤変動（耐震用、軟弱地盤用など）の要求される配管に適している。 |
| 直管 | |  | |
| 異形管 | |  | |
| 直管 (呼び径75～450) | |  | |
| 直管 (呼び径500～1000) | |  | |
| 異形管 (呼び径75～250) | |  | |
| 異形管 (呼び径300～450) | |  | |
| 異形管 (呼び径500～1000) | |  | |

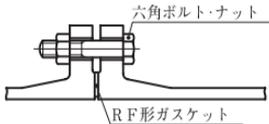
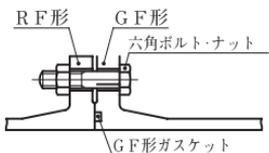
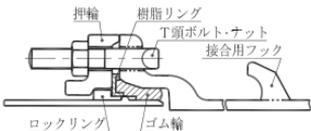
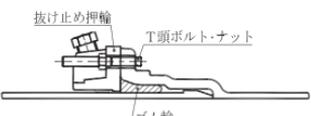
接合形式の要点（続き）

| 接合形式 | 呼び径 | 特長 | 用途及び使用についての要点 |
|--|----------------------------|--|---|
| S形 | 1100～2600 | <p>大きな伸縮性及び可とう性をもつメカニカルタイプで、最終的には受口と挿し口がかかり合って離脱防止の役目をする。</p> <p>継手の水密性は、K形と同じである。</p> | <p>耐地盤変動（耐震用、軟弱地盤用など）の要求される配管に適している。</p> |
|  | <p>US形</p> <p>800～2600</p> | <p>伸縮性及び可とう性をもち、管の内面から接合を行うメカニカルタイプで、最終的には受口と挿し口がかかり合って離脱防止の役目をする。</p> <p>継手の水密性は、K形、U形と同じである。</p> | |
| <p>呼び径800～1000</p>  <p>呼び径1100～2600</p>  | <p>PN形</p> <p>300～1500</p> | <p>伸縮性及び可とう性をもつプッシュオンタイプで、最終的には受口と挿し口がかかりあって離脱防止の役目をする。</p> <p>離脱防止力は、3DkN以上（D:呼び径）の要求で、継手の水密性は、T形と同じである。</p> <p>ロックリングの挿入やセットボルトによるロックリングの締め付けが不要である。</p> | <p>既設老朽管、新設鉄筋コンクリート管などをさや管として新管を配管するパイプ・イン・パイプ工法に使用し、耐地盤変動（耐震用、軟弱地盤用など）の要求される配管に適している。</p> <p>呼び径300～1100は、他の接合形式の外径と異なるため、取合い部には、受挿し短管などを用いて接合する。</p> <p>配管施工は、さや管に押し込む方式、及びさや管内に持ち込んで接合する方式がある。</p> |
| <p>呼び径 300～600</p>  <p>呼び径 700～1500</p>  | | | |

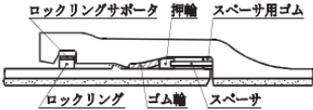
接合形式の要点（続き）

| 接合形式 | 呼び径 | 特長 | 用途及び使用についての要点 |
|--|----------|--|--|
| UF形 | 800～2600 | <p>大きな離脱防止力をもつメカニカルタイプで、U形の受口と挿し口にロックリングがかかり合う溝を設けたものである。コンクリート防護が不要又は軽減できる。</p> | <p>曲管部、T字管部、片落管部、伏せ越し部など内圧による抜け出し力が作用する場所に使用する。</p> |
|  | | | |
| K形 | 75～2600 | <p>ゴム輪を押輪とボルトで締め付けて接合するメカニカルタイプである。 作業が迅速で、継手の水密性が高く、かつ、伸縮性及び可とう性がある。</p> | <p>一般管路に使用され、大口径にも適している。</p> |
|  | | | |
| T形 | 75～2000 | <p>受口の内面にゴム輪を装着し、テーパ状の挿し口を挿入することで簡単に接合できるプッシュオンタイプである。 作業が迅速で、継手の水密性が高く、かつ、伸縮性及び可とう性がある。</p> | <p>直線部の多い管路に適している。 呼び径300以上の異形管は、製造されていないのでメカニカルタイプのものを使用する。</p> |
| <p>呼び径 75～250</p>  | | | |
| <p>呼び径 300～600</p>  | | | |
| <p>呼び径 700～2000</p>  | | | |
| U形 | 800～2600 | <p>管の内面から接合を行うメカニカルタイプである。 継手の水密性はK形と同じである。伸縮性及び可とう性がある。</p> | <p>シールド、トンネル内配管、掘削幅が狭い所などの配管に適している。</p> |
|  | | | |

接合形式の要点（続き）

| 接合形式 | 呼び径 | 特長 | 用途及び使用についての要点 |
|---|---------|---|--|
| フランジ形 | 75～2600 | 両方のフランジの合わせ面にガスケットをはさんで、ボルトで締め付ける。 剛継手であるため、伸縮性及び可とう性はない。 | フランジの付いた異形管には、形式1と形式2がある。形式1は、フランジがRF形みの異形管、形式2は、フランジにGF形を含む異形管である。 RF形-GF形の組合せで使用し、7.5Kの場合、RF形-RF形の組合せでも使用できる。 |
| RF形-RF形の組み合わせ（形式1） | | | |
|  | | | |
| RF形-GF形の組み合わせ（形式2） | | | |
|  | | | |
| NS形（E種管） | 75～150 | 大きな伸縮性及び可とう性をもち、最終的には受口と挿し口がかりあって離脱防止の役目をする。 継手形式は、直管がプッシュオンタイプで、異形管がメカニカルタイプである。 継手の水密性は、プッシュオンタイプはT形、メカニカルタイプはK形と同じである。 | 耐地盤変動（耐震用、軟弱地盤用など）の要求される配管に適している。 設計水圧は、1.3MPa以下で使用する。 |
| 直管 | | | |
|  | | | |
| 異形管 | | | |
|  | | | |
| S50形 | 50 | 大きな伸縮性及び可とう性をもち、最終的には受口と挿し口がかりあって離脱防止の役目をする。 継手形式は、直管、異形管ともメカニカルタイプである。 継手の水密性は、K形と同じである。 | 耐地盤変動（耐震用、軟弱地盤用など）の要求される配管に適している。 |
| 直管 | | | |
|  | | | |
| 異形管 | | | |
|  | | | |

接合形式の要点（続き）

| 接合形式 | 呼び径 | 特長 | 用途及び使用についての要点 |
|---|-----------|---|---|
| US形（R方式） | 1500～2600 | <p>伸縮性及び可とう性もち、管の内面から接合を行うメカニカルタイプで、最終的には受口と挿し口がかかり合って離脱防止の役目をする。</p> <p>継手の水密性は、K形、U形と同じである。</p> | <p>シールド、トンネル内配管、掘削幅の狭い所などで耐地盤変動（耐震用、軟弱地盤用など）の要求される配管に適している。</p> |
|  | | | |